目に見えない放射線を目に見える形でお伝えします

2020年度 当社施設周辺の 環境放射線等調査結果

青森県および当社は、当社施設が周りの環境に影響を与えていないか確認するため、環境放射線等の調査を行っています。

調査結果 **これまでと同じ水準であり、当社施設からの影響は認められませんでした。**

空気中の放射線の量を常にチェック！（①②③）

放射線のわずかな変化を捉えることができる「専用の測定装置」を、施設の周りに複数台設置しています。

人体への影響を調べるため、「立っている人とほぼ同じ高さ」になるように設置しています。

調査のようす（イメージ図）

農作物や海産物を定期的に採取し放射能を測定（④⑤）

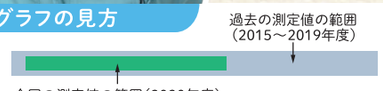
ガンマ線放出核種測定の流れ（白菜の例）

空間の放射線（2020年4月～2021年3月）

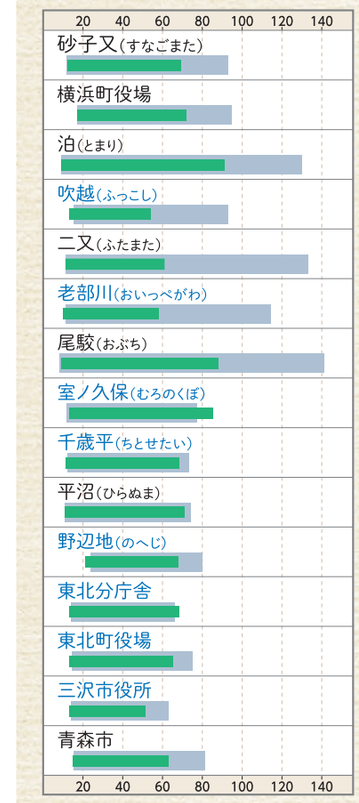
一部の地点（青字部分）で「過去の測定値の範囲外※の値」が測定されましたが、「いずれも降雨や積雪等によるものであり、施設からの影響は認められない」と評価されました。

※過去の測定値の範囲を上回った場合や、下回った場合を示します。

グラフの見方



凡例		
区分	県	事業者
モニタリングステーション及び積算線量計	◉	◎
モニタリングポスト及び積算線量計	◆	
モニタリングポスト	▲	
積算線量計	●	●



単位：ナノグレイ／時

環境試料中の放射能（2020年4月～2021年3月）

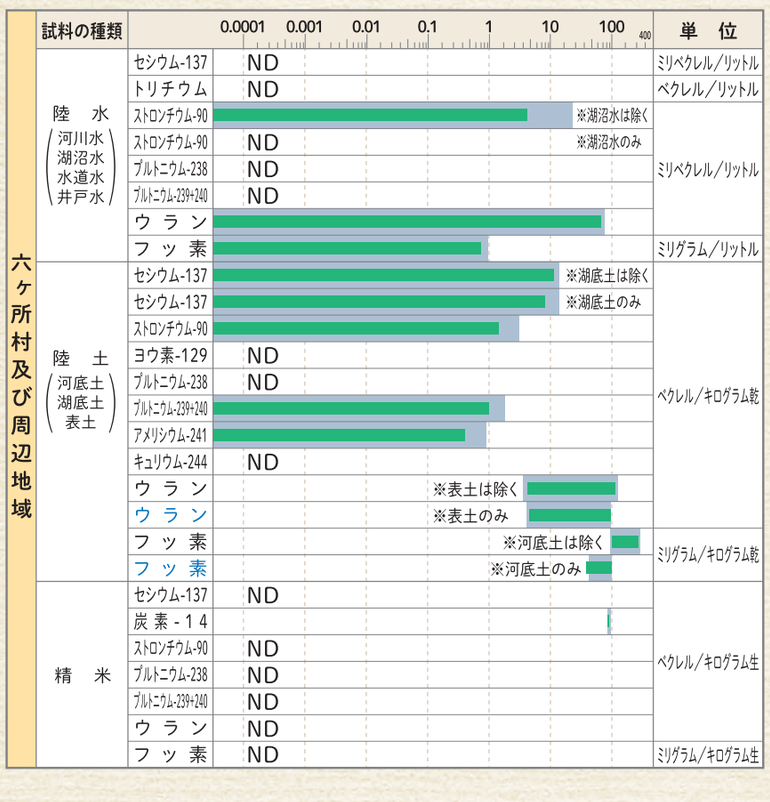
一部の試料（青字部分）で「過去の測定値の範囲外※の値」が測定されましたが、「いずれも放射性物質の自然変動等によるものであり、施設からの影響は認められない」と評価されました。

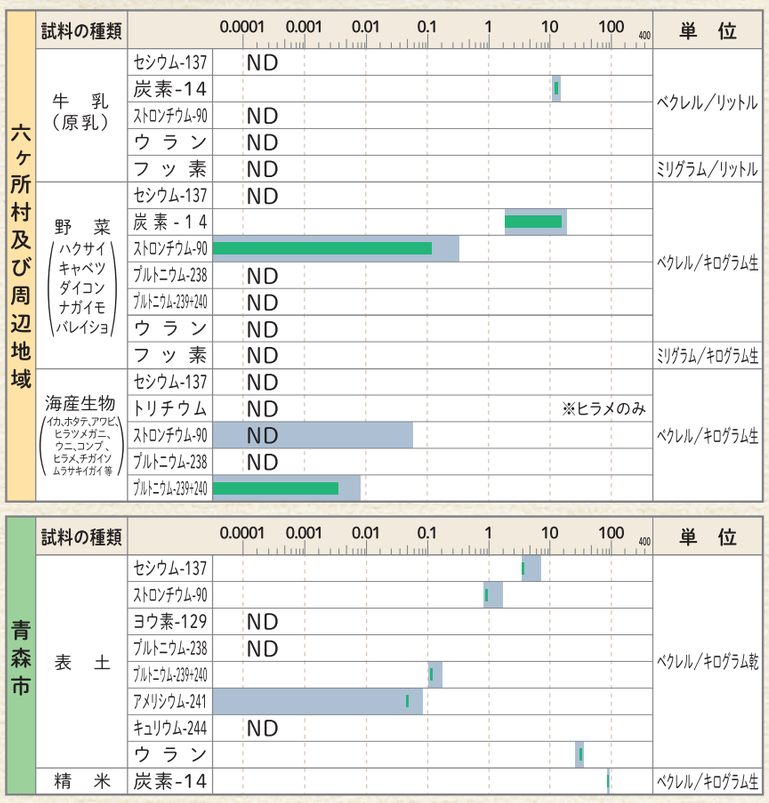
※過去の測定値の範囲を上回った場合や、下回った場合を示します。

グラフの見方

ND：定量下限値（測定条件や精度を一定の水準に保つために定めている値）未満であることを表します。

※2011年3月に発生した東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所の事故の影響と考えられる測定値は、過去の測定値の範囲には含まれていません。





Check! データの評価・確認

調査結果は、「放射線の専門家」や「立地市村・周辺市町村の長」等により構成された委員会で、評価・確認されています。

青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議

調査に用いる単位

- ベクレル（Bq）：放射能（放射線を出す能力）の強さを表す単位
- グレイ（Gy）：物質が吸収した放射線の量を表す単位
- シーベルト（Sv）：放射線の人体への影響を表す単位

《参考》 ミリ（m）……1,000分の1
マイクロ（μ）……100万分の1
ナノ（n）……10億分の1

本調査結果は、『原子力環境だより モニタリングつうしんあおもり№121』より、抜粋してご紹介しています。
すべての調査結果は、青森県のホームページからご確認いただけます。

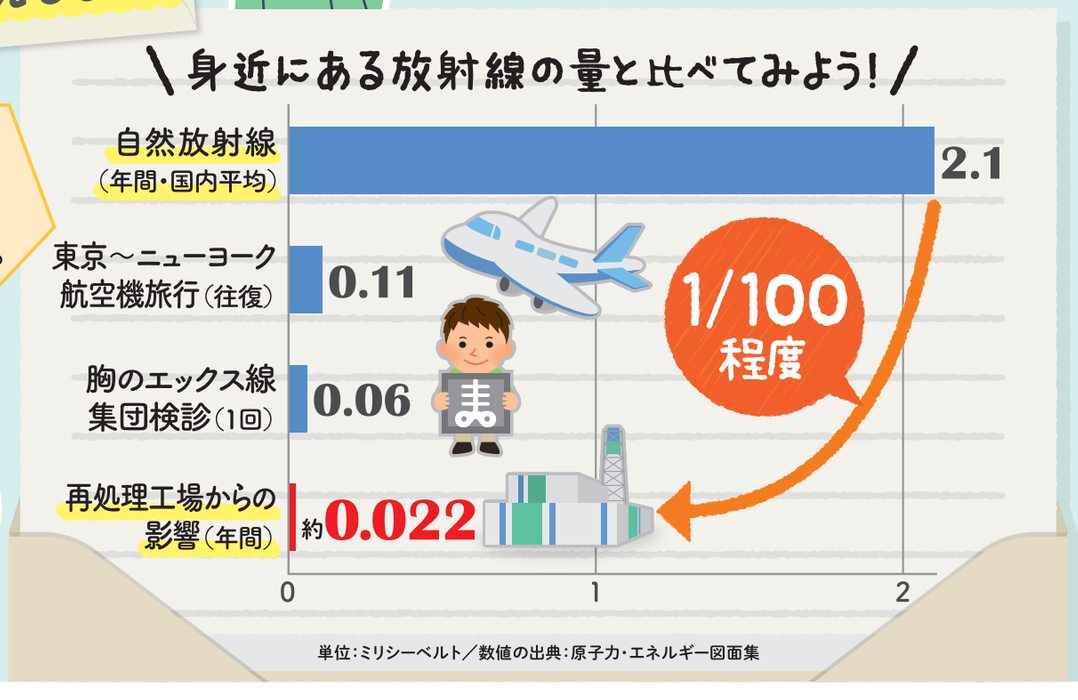
モニつう 検索

読者の皆さまから1番多いご質問にお答えします！

Q 再処理工場が稼働した時の「放射線の影響」が不安。**周りの環境や身体にどのくらい影響があるの？**

A **再処理工場からの放射性物質による影響は、「年間約0.022ミリシーベルト」**と国の安全審査において評価されています。この値は自然界にもともとある、**自然放射線による影響（年間約2.1ミリシーベルト）の「1/100程度」**です。

胸のエックス線検診で受ける放射線量と比べても小さい値です。



単位：ミリシーベルト／数値の出典：原子力・エネルギー図面集

Point 自然放射線

放射線は地球が生まれる前から、自然界に存在しています。目に見えず匂いもありませんが、身の周りのどこにでもあります。

自然放射線4つのルート

2021年11月発行